

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和顔施」(にこやかな顔)、「言辞施」(愛の言葉)、「慈眼施」(やさしい眼)、「床座施」(ゆずる心)、「房舎施」(宿の提供)、「力施」(労働奉仕)、「心施」(思いやりの心)の「無財の七施」を理念とし、入居者の方一人ひとりに対し、真心をこめ、最大限個人を尊重したケアに取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼時には参加者全員で「七施」を唱和し、理念の共有及び実践に努めている。また、玄関や事務所内の目に付きやすい場所に掲示したり、職員の名刺の裏へ記載する事で、常に意識できる環境作りに努めている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関には、不特定多数の方の目にも留まるよう大きく理念を掲示しており、パンフレットや職員の名刺にも記載する事で、より多くの方の目に留まるよう工夫しており、ご見学の際には「無財の七施」の実践をもって理解していただけるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	敷地が近隣住民の方々にとっての通勤・通学・散歩コースとなっている歩道に面し、ご近所の方の往来が多いため、お会いした際は気持ちよく挨拶するよう心掛けており、最近では職員に対し「頑張ってください」等声を掛けて下さる方も居られる。また、ペットを入居者の方に触れさせて下さるために立ち寄られる方も居られ、入居者の方々も楽しみにされている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当館での家族会へは、地域の方にも参加して頂けるよう御案内しており、毎回多くの方にご参加頂いている。また、自治会行事の際は会場を提供させて頂く等、積極的に地域との交流に努めている。		花野路自治区に最近老人会が設立されつつあるため、今後は老人会の皆様との交流の機会も積極的に設けたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者等の暮らしにおいて、お役に立てることは無いが常時話し合いを行っており、家族会では認知症やターミナルケアに関する活動報告を行い、認知症等の高齢者に関する情報を得る機会として活用して頂くと共に、入居申し込みやご見学以外の相談事にも出来る限り対応できるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングの際、運営者、管理者及び全体職員で話し合う機会を設けており、専門的知識を有する第三者の客観的立場から頂ける評価については真摯に受け止め、具体的な改善に繋がるよう取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の運営推進会議を開催しており、そこで頂いたご意見やご提案を館内行事等に活かすと共に、状況に応じ、より具体的なご意見やご感想を得られるよう、実際に館内行事に参加して頂いたり、食事を試食して頂くことでサービスの一層の向上に努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	些細な疑問でも担当者へ尋ね、必要に応じ相談を行う等、市や区の担当課ならびに市のケースワーカーの方との連携は図られており、そこから得られた回答やアドバイスを活用し、サービスの質の向上へ繋げるよう努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社外研修への参加や研修後は資料を用いた報告会及び事業所独自の勉強会を行っている。また、実際に制度を利用されている入居者については、制度利用に関わる報告の際に必要な領収書等の資料提供等の援助を行っており、必要であればいつでも支援できる体制を整えている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社外研修への参加や研修後の資料を用いた報告会及び事業所独自の勉強会を行い、虐待についての意識を強く持つと共に、職員全員で虐待の兆候が無いかに注意を払い、虐待防止及び見過ごす事の無いように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約等を行う場合はリラックスして頂ける雰囲気作りを心掛け、入居者やご家族様の表情や声色等にも配慮しながら、疑問点等に対する説明を行い納得して頂けるよう努めている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者を窓口とした苦情の受付を行っており、日常的にも職員全員で話しやすい雰囲気作りに努めている。また、入居者の方の不満や苦情等は全職員へ対しプライバシーに配慮しながら周知を行い、その都度速やかな対応を心掛けている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご面会に来られた際に、日頃の暮らしぶりや健康状態、預かり金等については随時説明している。また必要に応じ、適宜電話連絡等も行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者及び全職員は常にご家族との対話に努め、話しやすい雰囲気を心掛けながら情報交換を行う事で、苦情、不満等の意見を表せるよう配慮し、それらに対しては迅速な対応を行うと共に、対応等に関しての報告も併せて行い、運営への反映に努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月一度、運営者、管理者及び全職員でのミーティングに併せ、必要に応じ随時ミーティングを行っており、日々変化する状況を報告し、情報共有を図ると共に、意見や提案を発言できる場を確保し、その際の意見や提案を業務に反映させるよう努めている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に応じた柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>入居者やご家族の状況の変化に速やかに対応出来るよう、勤務の調整等については適宜話し合いを行っており、職員の理解もあることから、可能な限り柔軟に対応できる体制となっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や離職が最小限になるよう、運営者が管理者を含めた全職員との対話機会を積極的に設けており、風通しが良く働きやすい職場作りに努めている。しかしながら、個人的要因による離職については慎重を要するため影響が全く無いとは言えない。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>男女及び年齢・経験を問わず、個々の意欲を尊重した採用を実施している。また事業所ではそれぞれの持ち味を活かし、様々な場面で能力を發揮する機会を設けると共に、休み希望は可能な限りシフトに取り入れ、子供の居る職員については学校行事等への参加を優先できるよう勤務調整を行う等、職員一人ひとりの私生活が充実できるよう配慮を行っている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>ミーティングを通し、随時社外研修参加の報告や、法話や新聞記事を題材とした事業所独自の勉強会を実施する事で、繊細な部分まで人権に関しての理解を深めるよう努めている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の経験、能力、段階に応じ、社外研修に参加出来る機会を確保すると共に、参加の際は会社が費用を全額負担する事で、より参加しやすい工夫をしている。また、資格取得支援として、雇用形態を問わず、希望者に対しては資格取得に要す教材費・受験費等の費用を全額会社負担としており、積極的な育成を図っている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者連絡会や区内の事業者連絡会等へ参加し、積極的に名刺交換を行う等、地域に根付いた事業所となるよう取り組みを行っている。また、各種社外研修への参加の機会を通し、同業者との交流の機会を確保している。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>食事の時間等を利用し、運営者と管理者及び全職員とのコミュニケーションを保っており、職員は悩み事や相談事等を話せる機会としても活用している。また、三ヶ月毎の食事会を設け、日頃シフト制によりゆっくり話すことの出来ない職員とも交流を図れるよう配慮し、より良い環境作りに努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は頻繁に現場を訪れ、職員一人ひとりに声を掛け、目に見える努力や実績、勤務状態のみならず、見えない努力まで把握するよう目を配り、公正な評価を行っている。また、希望者に対しては資格取得支援や、一人ひとりの長所を活かすべく、適材適所の配置を心掛け、向上心を持って働けるよう努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>「心施」、「言辞施」、「慈眼施」を実践し、対話時間を多く設ける事で、信頼を得られる関係作りを心掛けており、言葉だけではなく、ご本人から発せられるシグナルを受け止め、理解することにより迅速な対応が出来るように努めている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>「心施」、「言辞施」、「慈眼施」を実践し、ご家族のこれまでのご苦勞や現在及び将来にわたっての不安、希望等について傾聴することで、信頼関係の構築に努めている。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>言葉による情報のみにとらわれず、表情や仕草、ご本人とご家族を取り巻く環境等からも情報収集に努め、まず必要としている支援を見極めると共に、介護保険サービスに限定せず、あらゆる社会資源利用の可能性も含めた対応を心掛け、満足して頂ける支援を提供できるよう努めている。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご相談やご見学は随時承っており、ご見学の際は職員一人ひとりが必ず挨拶や声掛けを行う等の工夫をし、安心された上でサービスを受けて頂けるよう配慮し、職員全体での対応を心掛けている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の皆様と同じ時間を過ごしていく中で、昔の暮らしの様子や知らなかった事を教わる事も多々あり、学ばせて頂く内容も多岐にわたる。また、ご本人から感謝や気遣いの言葉を頂き、それらが職員にとっての励みや癒しとなる事も多く、互いに支えあえる良い関係を築いている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃より、ご家族の方との密なコミュニケーションを図っており、ご本人の状況を共有し、一緒に支えていける関係構築に努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族との良質なコミュニケーションが図れるよう、また、より良い関係が築いていけるよう、中立的な立場を保ちつつ、職員全体で支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご面会は随時可能であり、電話の取次ぎや伝言、時には手紙の代筆等を行うことで関係継続のための支援に努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員の介在による円滑なコミュニケーションに配慮しつつ、状況に応じ食卓の席替えを行う等の柔軟な対応を心掛けており、入居者同士が日々関わり合いを持ちながら、お互いに助け合う場面も多くなっている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、当館の近況報告や便り、行事等へのお誘いをしており、死亡による利用終了の場合は初盆参りをさせて頂く等、ご縁を大切にしたお付き合いをさせて頂いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中から、ご本人の発せられる言葉に限らず、あらゆる情報を収集し、それらを含め、ご本人の思いや希望等の把握に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始までに、ご本人やご家族との密なコミュニケーションを図り、プライバシーに配慮した上で多くの情報を収集し、これまでのサービス関係者や医療関係者等からも情報収集に努めている。また、入居後もご家族やご本人との対話により、全人的把握に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝礼時、一人ひとりの些細な変化や状態を全職員で共有できるように努め、ケース記録に反映させると共に、日に最低二度の申し送りを実施し、経過を含めたその時々々の状況を確認に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族、主治医と密にコミュニケーションを図ると共に、ご本人のその時の状況、それまでの経過等を共有した上で、そこから得られた意見やアイデアを介護計画に反映させている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に加え、入院等による状況の変化が生じた場合は、ご本人、ご家族、主治医等関係者との話し合いを行い、速やかに新たな介護計画を作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間のコミュニケーションや申し送り、ケース記録の活用等により詳細な情報を共有し、日々のサービス提供や介護計画の見直しに努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出前の入浴や外出時の服薬に関する支援、介助のアドバイス、ご家族と主治医の仲介役、入院時及び入院中から退院までの支援、オムツ類の使用量を控える工夫等、その時々々のご要望に対しては出来る範囲ではあるが、柔軟な対応を行うよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じ、民生委員やボランティアの方々に協力して頂き支援している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーやその他サービス事業者との話し合い、情報交換に努め、必要に応じて様々なサービスを利用できるよう支援している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターとは密に情報交換を行い、双方が気軽に相談できる関係を築いており、必要に応じて協働できるよう努めている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を優先しながら、納得した上でかかりつけ医を決定している。また、かかりつけ医とは密なコミュニケーションを図り、定期受診・往診に加え、日々のバイタルサイン等の変化を情報共有し、状況に応じた柔軟な対応を可能としており、一人ひとりがそのときに必要且つ適切な医療を受けられるように支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関と密な連携を取り、必要に応じて認知症の診断や治療を受けられるよう支援を行っている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置すると共に、協力医療機関の看護師とは密なコミュニケーションを図り、気軽に相談できる関係を築いており、日常の健康管理や医療活用についてのアドバイスと協力を得ながら支援に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>病院・医療関係者の方々とは密な情報交換等を行っており、入院された際は入院先へ訪問し、状況の把握に努めると共に、早期退院に向けての連携を図ることで協働体制は確保されている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時にあらかじめ意向を確認する共に、状況に応じ、当館で出来る範囲でのサービスのあり方について、ご本人、ご家族及びかかりつけ医との話し合いを重ね、全関係者が方針を共有するように努めている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>当館は開設時よりターミナルケアに積極的に取り組んでおり、入居者の状況の変化に応じ「できること・できないこと」についてはその都度、関係者で話し合いを行い、全関係者がそれぞれの役割を理解・確認した上で、どのような状況の変化にも対応出来るチームとしての支援を行っている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替えに至るまで話し合いを重ね、ご家族のご協力を得ながらダメージを最小限に抑える努力をされており、住み替え後も必要に応じ情報交換を行い、ダメージ防止に努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者一人ひとりの個性や好みに合わせた声掛けを行うことを心掛けている。また、記録については暗証番号を用いて管理すると共に、個人情報についてもプライバシー保護や守秘義務について理解を促したうえで、慎重な取扱いを行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの残存能力を見極め、個々に応じた声掛けを心掛けると共に、表情や仕草等にも注意を払い、時には非言語的手段や筆談等も用いながら、自己決定や意思表示ができるよう努めている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り一人ひとりのペースや希望に沿い、塗り絵や書き取り、散歩や買い物等、多くのアクティビティの提案やコミュニケーションを図りながら、その人らしい一日一日を過ごして頂けるよう支援を心掛けているものの、ご本人の体調や、天候等により希望に添えない時には職員側の都合を優先してしまうこともある。		希望に添えない際も、ご本人の好まれる事柄を考慮した上で、それに変わる何かを提案することで、その人が希望するその人らしい暮らしの実現を目指したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	二ヶ月に一度訪問美容室を利用して頂き、その際はご本人の希望を取り入れている。また、毎日の身だしなみやおしゃれについても、ご本人の希望や好みを取り入れながら支援している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を取り入れた行事食や、誕生会を毎月実施しており、入居者の皆様も心待ちにされている。、テーブル拭きや下膳等、本人の残存能力に応じ、出来ることを行って頂いている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康増進法の施行及び安全を最優先している為、館内は禁煙とさせて頂いている。その他の事柄に関しては、健康状態や基礎疾患等を考慮し、ご家族や主治医とも協議した上で、可能な限り楽しんで頂けるよう努めている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄に関しては一人ひとり記録に確実に残し、排泄リズムや排泄習慣を職員全員で把握することで、気持ちよく排泄して頂けるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則週に二回としているが、状況に応じ適宜実施しており、入浴時の湯温や手順等は一人ひとりの好みに配慮し、楽しんで頂けるよう配慮している。また、週に一度または必要に応じ足浴を実施し、足先に関するトラブルの予防と同時に気分転換を図っている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの好みを把握し、個々の状況に応じた空調や調光を実施すると共に、眠れない方や不安そうな様子を見せられる方には声掛けを行い、傾聴の姿勢をもって接する等の配慮を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者全体の要介護度が高い為、きめ細かな支援は困難であるが、洗濯物たたみやテーブル拭き等の家事や散歩、花壇のお世話等の外出の機会も積極的に設け、一人ひとりが日々を楽しんで頂けるよう努めている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	万単位での金銭所持は御遠慮して頂いているものの、小銭は能力に応じ所持して頂いている。また、月に一度の出張コンビニでの買い物や、移動パン屋等を活用し、お金を使う機会を確保しており、希望があれば敷地内の自動販売機でのジュースの購入等の支援も行っている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や体調を考慮しながら、散歩やドライブ、お花見等の機会の確保に努め、短時間でも外気に触れて頂けるよう努めている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族のご協力が得られる場合には、美術館や公園、遠方のご兄弟へのご面会等へ出かけられており、その際は介助のアドバイスや内服薬準備、外出前に入浴等を実施し、気持ち良く外出を楽しんで頂けるよう支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については取次ぎを、また、希望があった場合は電話をかける等の対応を行っている。手紙に関しては、入居者の残存能力に応じ、職員が代筆をする等の工夫も行っている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	どなたでも気軽に訪問して頂けるよう、ご来館の方に対しても「和顔施」、「慈眼施」、「言辞施」を実践し、ご面会の最中はプライバシーや空調等に配慮することで、居心地良い空間及び雰囲気作りに努めている。また、お帰りの際は、事業所の敷地を出られるまでのお見送りを毎回実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社外研修への参加や、研修後の資料を用いた報告会及び事業所独自の勉強会を行い、全職員が正しく理解できるよう努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		全職員が正しく理解するには時間を要するため、実際に介護を行っていく中で、禁止対象となる行為等について職員間での確認を行い、正しい理解を得られるように継続した取り組みを行いたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当館では、ミーティングや勉強会、日々のケアを行う中で全職員へ鍵をかけることの弊害についての理解を促し、開設当初より無施錠を原則とし、「鍵を掛けないケア」を実施している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	訪室する際には必ず扉をノックした上で声掛けを行い、声掛けの内容についてもご本人の自尊心に配慮した内容となるよう心掛けている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの残存機能に応じ、注意を要する物品については職員と一緒に使用する、または見守りを行うことで危険防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを設置すると共に、事故防止や緊急時の対応方法、入居者一人ひとりに起こり得るリスク等について適宜勉強会や話し合いを行っている。また、緊急時は管理者へ報告・連絡し指示を仰ぐと共に、その指示のもと、速やかな対応を行うよう心掛けている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時に慌てる事の無いように、定期的に看護職員及びかかりつけ医による応急処置の指導や、物品の保管場所及びその使用方法の確認等を行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけを行っている	消防署員との合同による消防訓練の実施や、定期的に避難経路の確認等を行っている。また、自治会の方とのコミュニケーションの機会を確保し、協力を得られるよう働きかけを行っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご面会の際には随時、状況の変化に応じた一人ひとりのリスクについての報告・説明を行い、話し合いの機会を設ける中から、適切な対応を行うよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日二回のバイタルチェックの実施や食欲、排泄状況等を細かく観察し、朝礼を含む最低三度の申し送りならびに異変時にはその都度、管理者及び職員間の報告を徹底することで、速やかな対応に繋げている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カーデックスを用いて、入居者一人ひとりについての処方内容が一目で分かるよう工夫している。また、処方内容に変更があった場合、口頭及び文章による申し送りを徹底すると共に、調剤薬局の協力を得、薬の粉碎や分包、服用時の注意点、その他質問や相談事にも対応して頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	医師ならびに看護職員による便秘に関する原因や影響、予防策等の説明は随時行われており、それに基づき薬に頼らない便秘予防に取り組んでいる。また排便管理表の記入やケース記録を活用することで排便状況が一目で分かる工夫をしている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科医師による口腔ケアの重要性やその方法等の説明が随時行われており、それに基づき食後や就寝前の口腔ケアの介助やケア後の確認等、一人ひとりの状態や能力に応じた支援を行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立により提供し、一人ひとりの既往症や嚥下状態等に応じ、塩分や主食の増減、適切な食事形態での提供に努めると共に、食事以外にもティータイム等の機会を確保し、水分補給に積極的に努めている。また、食事及び水分摂取の状況が一目で把握できる表を活用しており、低栄養や水分不足による心身への弊害等の理解にも努めている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルや事例を用いた社内研修の実施や社外研修への参加を積極的に行い、感染症予防の重要性を理解すると共に、日常的に1ケア・1グローブ、手洗い、うがい、換気等を徹底している。また、予防接種を毎年実施し、インフルエンザ等の予防に努めている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は旬の物を中心に使用し、その際食品の消費期限等の確認や適切な保管を徹底すると共に、調理器具・食器等の高温加熱による消毒を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランターの設置等、玄関まわりは緑を絶やさず、季節感を感じられるような演出を心掛けると共に、敷地内及び歩道までを清掃範囲とし、清潔の確保に努め、悪臭や汚れ等の不快感を誘う要素は極力取り除くよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部については随時清掃や換気を実施し、清潔の確保に努めている。また、採光や調光に配慮し、リビングには花を飾り季節感を演出、音楽にも季節感のあるものを取り入れ、日当たりの良い窓際には自由に利用できるソファも設置しており、入居者の皆様が心地よく過ごして頂けるよう工夫をしている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	歩行や移動の邪魔にならないよう安全を考慮した上で、日当たりの良い場所にソファを設置し、自由に使用して頂いている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	週に一回以上のリネン交換を実施する事で清潔の保持に努めると共に、タンス等は使い慣れたものを持ち込んで頂いており、壁には写真や動植物のポスター、ご本人の作品等を飾って頂き、一人ひとりが居心地の良い環境作りに努めている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の環境整備やその他必要に応じ随時換気を行っている。また、エアコンの使用温度は外気と大きく差がないよう、設定温度を設けると共に、空調機器に頼らず衣類での調節へも積極的に取り組んでいる。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は全てバリアフリーとなっており、手すりの設置や滑り止め加工の床材の使用、またトイレや洗面台、浴槽等は車椅子の方でも使用しやすいものを使用している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	過剰な介護を避けると共に、失見当織障害が著明な方に対しては自室やトイレに目印をつける等の工夫をし、一人ひとりの残存機能に配慮した適切な介助を心掛け、自立した生活を送って頂けるよう努力している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	安全を最優先しており、駐車場の確保等の諸事情により敷地に限りがある為、外周の活用は困難であるが、天気の良い日は広い敷地並びに周辺環境を活かし、散歩や日向ぼっこを楽しんで頂いている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

大正館では開設当初より、ご家族・介護・医療の連携を密に図り、ターミナルケアに積極的に取り組んでおり、また、ご希望があれば葬祭場の手配等も含め、最後までしっかりとご本人やご家族と関わりを持てる支援に努めている。